

<b>研究課題名 (研究期間)</b>	閉鎖性海域等の環境対策に関する研究 (H26～H28)
-------------------------	-----------------------------

**研究の概要**

<p><b>研究ニーズ等課題化の背景</b></p> <p>性状の異なる2種類の閉鎖性海域である大阪湾と播磨灘を有する兵庫県は国内でもユニークな存在である。このことは環境面に目を転じれば、依然として継続する大阪湾奥部の富栄養化と近年注目されてきた播磨灘の貧栄養化という相反する環境課題に兵庫県が直面していることに繋がる。</p> <p>これらに共通する主原因として自然海岸の減少による生物が担う物質循環の劣化が挙げられる。</p> <p>本研究では大阪湾内に造成された人工干潟および残存する半自然干潟に生息する生物が担う物質循環を通じて水質浄化、栄養塩類供給について評価し、豊かな海づくりに必要とされる知見を提供する。</p> <p>また、各干潟に生息する生物に由来する有機物量を測定することにより、近年注目され始めた海洋生物によって吸収される二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)「ブルーカーボン」を把握し、二酸化炭素吸収源としての干潟を評価する。この干潟に対する新たなプラス評価により、県民の海に対する保全意識を高めることに寄与する。</p>	<p>第4次県環境基本計画の該当項目</p> <p>自然共生</p> <p>1) 生物多様性の保全の総合的推進</p> <p>2) 里海の適切な管理</p> <p>3) 健全な物質循環の確保による豊かな海づくり</p> <p><b>県関連施策名等</b></p> <p>閉鎖性海域対策：水質総量削減(COD、窒素及び磷)計画策定、環境基準の達成、豊かな海づくり</p>
---	--



<p><b>目的</b></p> <p>大阪湾に残存する干潟および海岸線の大部分を占めることになった人工海岸に生息する生物が担う物質循環の有効活用およびブルーカーボン把握による干潟に対するプラス評価の付与</p>
--

<p><b>内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川からの栄養塩負荷がなく、海水中の栄養塩類を利用した人工干潟における有機物分解、栄養塩類無機化の評価</li> <li>・海水中の栄養塩類と河川由来の栄養塩類を利用した半自然干潟における有機物分解、栄養塩類無機化の評価</li> <li>・人工干潟および半自然干潟における生物由来の有機物量からのブルーカーボン把握</li> </ul>
--